

第3回 安芸高田市総合計画審議会 議事録

第3回 安芸高田市総合計画審議会	
日時	2025年3月4日（火）15時00分～
場所	安芸高田市民文化センター（クリスタルアージュ 4階小ホール）
出席者	別途、委員一覧参照
資料	【資料1】第2回審議会の振り返り 【資料2】主要な論点事項 【資料3】今後のスケジュール 【資料4】第3次安芸高田市総合計画シンポジウムの結果概要 【資料5】アンケート調査の結果概要 【資料6】第3次安芸高田市総合計画基本構想(案)の検討プロセス 【資料7】第3次安芸高田市総合計画基本構想(案) 【資料8】第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針 【参考資料】パンフレット：第3次安芸高田市総合計画シンポジウム 「安芸高田市のまちの未来を若者と語る日」 2/2開催済
議事内容	
会長	(質疑) 協議事項①「第2回審議会の振り返り」について、資料1の2ページ目に前回の指摘内容がまとめられています。ご質問やご意見があればお受けしますが、よろしいでしょうか。
各委員	意見なし
会長	では、先に進みます。 協議事項②「主な論点事項」は資料2です。今回は将来像と施策背景、特に住民自治組織について、アンケートで意見が明確になってきています。これが今回の論点ですがよろしければ先へ進みます。
各委員	意見なし
会長	協議事項③「今後のスケジュール」です。資料3の2ページ目に会議名とスケジュールが記載されています。当初より遅れている理解でよろしいですか？説明がなかったのでお伺いできればと思います。

事務局	これは当初の予定どおりのスケジュールです。
会長	当初からこちらのスケジュールでしょうか。
事務局	はい。
会長	今年 9 月に確定予定で、スケジュールどおり進んでいるかと思います。スケジュールについてご意見ありますか。なければ先へ進みます。
事務局	意見なし
会長	資料 4 のシンポジウム結果概要について、ご質問はありますか。特になければ先へ進みます。
各委員	意見なし
会長	次に⑤アンケート調査結果です。資料 5-1、市民アンケート（18 歳以上）の結果について、ご質問やご意見はありますか。
A 委員	資料 14 ページのアンケートについてですが、幸福度や満足度の選択肢は、あらかじめ用意されたものから選ぶ形式でしょうか。
事務局	はい、あらかじめ用意した選択肢から回答いただく形式です。
A 委員	幸福度や満足度はわかりますが、不満や物足りなさについての調査は行っていますか。
事務局	10 ページにあるように、医療や福祉、買い物、飲食などの分野別に生活の満足度を 5 段階で評価してもらっています。オレンジの折れ線が安芸高田市民の回答平均で、青い折れ線が広島県全体の平均です。これを見ると、広島県と比べて、買い物、飲食、移動、交通、遊び、娯楽の満足度が低いことがわかります。満足度が高いのは 4 点と 5 点で、低いのは 1 点と 2 点です。したがって、3 点以下は満足度が低いと解釈できます。

A 委員	ありがとうございます。今回は主観的な要因として、社会のあり方や個人の経験が幸福感や満足度にどう影響しているかを具体的にあぶり出すような調査にはなっていないということでしょうか。
事務局	11 ページでは、主観的な因子と幸福度の関係性を示しており、ほぼすべての因子がプラスの影響を与える結果となっています。要するに、これらの因子が上がることで、幸福度も上がるという関係性が見て取れます。身体的・精神的健康が高いと幸福度も高く、逆にこれらが低下すると幸福度も下がるという関係が見られます。
A 委員	まちの将来像を描くために、総合計画を策定する必要があると思います。どのようなまちを目指していく方向性において、ネガティブな要素を解消し、ポジティブな部分を強化することで、人々が離れないような総合計画がより良いものになると考えています。良いところを伸ばすだけでなく、課題や嫌な思いをして離れたいと思う部分を把握することで、より精度の高い計画が立てられると思います。
事務局	ありがとうございます。 そういった分析も可能ですので、継続して進めていきたいと思っています。
会長	他にございますか。 資料 5 の 1 の 16 ページで、幸福度を高めるために自分を好ましく感じることが重要だと理解しましたが、なぜそれが義務教育における自己肯定感の醸成につながるのかが理解できなかったので説明をお願いいたします。
事務局	ありがとうございます。義務教育からの取組の背景は、18 歳以上だけでなく、中高生のアンケートでも自己肯定感が幸福感に関連していることがわかったためです。結果として、学生や子どもの頃から自己肯定感を高める取組を行うべきだと考え、例として提示しています。
会長	この方向性は非常に重要で、総合計画に大きな影響を与えます。そのため、慎重に方向を決めるべきだと思います。義務教育だけでなく、地域での支えや、自己肯定感を高めるための他の要素についても分析が必要だと考えます。いかがでしょうか。
事務局	ありがとうございます。 今後、幸福度の高め方についてさらに分析を進めていきたいと思っています。

会長	23 ページに進むと、地域振興組織の認知度向上に関するアンケート結果が整理されています。対応策として冊子配布が挙げられていますが、これは既の実施されているのではないかと思います。その点について教えてください。
事務局	現状では、冊子の配布はまだ行っていない状況です。
会長	地域振興組織ごとに冊子を作成するイメージですか？
事務局	32 の地域振興組織に参加するメリットや意味など事例を交えて示す冊子をイメージしています。
会長	現在もそのような冊子は作られていないという理解でよろしいでしょうか。
事務局	はい、作っておりません。
会長	しょうがないことですが、それ自体が問題だと思います。 もう一つは、③番の無関心層に関する施策の2つ目の矢印部分、「イベント等の目的に着目した関わりしろの創出」ですがどのようなイメージでしょうか。
事務局	地域振興組織の参加ハードルが高い若者向けに、イベントや突発的な目的をきっかけに活動を促す取組として記載しています。
会長	餅つき大会や夏祭りなど、イベントをきっかけに関わりを促すイメージですか。
事務局	はい、そのとおりです。
会長	ありがとうございます。ほかに質問はありますか。
A 委員	23 ページについてですが、認知度が高くても、参加と運営側としての参画には大きな隔たりがあると思います。特に若年層や勤労世代の参画が少ない現状を踏まえ、その原因を特定し解決していく必要があると考えます。認知向上は重要ですが、その先を見据えて、ボトルネックを特定し、解消する計画を立てる必要があると感じます。
事務局	ありがとうございます。若い人が地域振興組織にメリットを感じにくい、同世代の参加者が少ないというボトルネックが見えてきているので、分析を進めていきます。

会長	ありがとうございます。地域振興組織の活動に対する理解が不足しているという点、共感します。地域の盛り上げや共助の重要性がしっかり伝わっていないのかもしれませんが。災害リスクを背景に、市民への訴え方を工夫し、パンフレットの内容も考えながら進めることが大切ですね。
B 委員	膨大な資料の分析、ありがとうございます。わかりやすい説明でした。先ほど、義務教育レベルでの教育に関する指摘がありましたが、地域愛着の視点は大事だと思います。現在、小中一貫教育はどのように進めているのでしょうか？教育委員会の取組について教えてください。
事務局	教育委員会からの話では、探求学習が進められています。小学校高学年から始め、一人一つ課題を設定して調査を行います。中学校でも同じテーマを続けるか、変えるか選べます。中高一貫教育として、学習面では探求学習が進められているとのことでした。
B 委員	ありがとうございます。広島県内での小中一貫教育を受けている子どもたちのウェルビーイング尺度に関するデータについては、具体的な情報は今のところ把握していませんが、もし広島県がその調査を参考にしているのであれば、そのデータは役立つ可能性があります。教育が子どもたちのウェルビーイングにどのように影響するかを示す裏付けとなり、施策を進める際にも有効なデータとなるでしょう。データがあれば、施策に生かすことができると思います。
事務局	ありがとうございます。学生のウェルビーイング指標はまだ十分に取られていない部分が多いです。特に小学生に関しては、データが少ないかもしれませんが、調査してみる価値はあります。
B 委員	今回の調査は SD 法（Semantic Differential 法）ではなく、他の方法を使用していますか。項目がプラスに振れているのは、その調査の設計や回答の傾向に影響された結果だと思われます。 今回の調査は SD 法でしょうか。
事務局	主観因子は 5 段階評価です。
B 委員	実施されているんですね。
事務局	はい。

B 委員	そうですか。主観因子は抽出しているということでしょうか。
事務局	はい。そのようなイメージです。
B 委員	ありがとうございます。
会長	資料 5 の 2（市内の高校生）、資料 5 の 3（市外の高校生）、資料 5 の 4（中学生）について、ご質問があればお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。
A 委員	中学校を含めて、特に最後の資料 5 の 4 の 8 ページに記載されている「学生が幸せを感じる時」についてですが、こちらは自由記述ではなく、選択肢が用意された形式での回答となっているという理解でよろしいでしょうか。
事務局	はい。選択肢を準備したうえで複数回答をいただいています。
A 委員	選択肢形式だと、回答が集約され、恣意的な結果になりやすいのではないかと思います。自分が幸せを感じる瞬間は必ずしも選択肢内で選ぶ必要はないと思いますが、その他に自由記述の部分はあったのでしょうか。
事務局	その他の回答は下段にあり、回答数にばらつきがありました。ただ、その他の具体的な回答内容については、現在はまだ分析できていない状況です。
A 委員	このアンケートは、子どもたちが幸せを感じるためには部活をがんばるべきだという結論につながりやすいと思います。そのため、子どもたちが幸せを感じる瞬間や、将来地域に戻りたいと思わせる体験について慎重に考えるべきだと感じています。これを基準に考えて良いのか、つながりについてどう思うかお伺いしたいです。
事務局	ありがとうございます。幸福度には持続性の高いものと低いものがあり、部活での成果や地域イベントの盛り上がりは持続性が低いと考えています。一方で、個人の幸福度は持続性が高く、これは長期的に幸せを感じられる要因だと思います。特に、個人の 4 つの因子に着目し、それを高める政策が重要だと考えています。また、地域への愛着や戻りたいという気持ちとの関連性についてはまだ分析できていないため、次回以降に深めていきたいと思っています。

A 委員	アンケートを通じて、将来的にこの地で暮らしたいと思う人が増えることを目指しています。人口減少には、外から人を呼ぶよりも、地元の人が帰ってくることが最も効果的だと考えています。そのため、仮説を立て、それを検証していく過程だと思っています。今の段階では、何もないところからアンケートを取って方針を立てている段階なのか、ある程度仮説があってそれに基づいて進めているのか、どちらかというところの段階に当たるのでしょうか。
事務局	現在は、特定の仮説を持って分析を進めている段階です。まだ網羅的に聞いた結果の速報段階であり、体系的に示している段階には至っていません。
A 委員	わかりました。
会長	それでは、次にお手元の次第にある協議事項の⑥第 3 次安芸高田市総合計画基本構想案の検討プロセスから、協議事項の⑥第 3 次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針まで、一括して事務局から説明をお願いします。
会長	ありがとうございました。今、資料⑥⑦⑧を一括で説明いただきましたが、まずは資料⑥⑦についてご質問やご意見があればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。
会長	5 ページ目の、「解け合う」「芽吹く」「一つになる」のキーワードについて、「解け合う」「芽吹く」の意味で理解できますが、「一つになる」とはどういう意味なのか再度説明いただければと思います。
事務局	ありがとうございます。おっしゃるとおり、一人一人の価値観を尊重し合い、対話によって解決していく姿勢が大切だと思います。「一つになる」という言葉は、最適かどうかはわかりませんが、まとまるというイメージでキーワードを抽出いたしました。また、旧 6 町の合併背景も含んでいます。
会長	ありがとうございます。
A 委員	今の 6 ページに掲げていただいた「とけあい」「芽吹く」「一つに就る」という言葉についてですが、これらは受け継いでいきたい安芸高田らしさをまとめた言葉だというイメージでよろしいでしょうか。
事務局	言葉や雰囲気、情緒的なイメージを示させていただいています。

A 委員	受け継いでいきたいという点は、既存のものを受け継ぐ意味だと思いますが、この言葉自体は新たに考えられたもので、努力は感じます。ただ、率直に言うと少しなじみがないと感じます。今後 20 年を見据え、この合い言葉で進めていく方針は執行部や事務局から提案されているのでしょうか、それともまだたたき台の段階でしょうか。
事務局	ありがとうございます。 これはたたき台で、外向きには「百万一心、未来へつなぐ安芸高田市」という基本理念が表に出てくると思います。このキャッチコピーが表に出ることはなく、むしろ「解け合い」「芽吹く」「一つになる」は受け継いでいきたい価値観として、総合計画全体に色として落とし込まれることを意図しています。
A 委員	そうであれば、先ほどの資料にあったシンポジウムで市長がまとめられた言葉があったかと思います。
事務局	「肯定と行動と共有」という言葉ですね。
A 委員	そうですね。これは私個人の意見ですが、その価値観を大事にしていこうという話の方がしっくりくると感じました。
事務局	ありがとうございます。その価値観を・将来像を実現するための 3 つの姿勢として使わせていただいていたという点もあります。しかし、将来像自体が適切かどうかということもあるので、ぜひご意見をいただければと思います。
A 委員	資料 6 の 9 ページについてですが、新しい価値観を生み、まちの魅力を育む機能として、観光客の数を指標にするのが適切なのかという点について疑問を感じています。観光のまちとは言い難い部分もあるため、今後の安芸高田を考える際に観光客の数を目指すべきかどうか、他の委員の皆さんのご意見も伺いたいと考えています。
事務局	観光客数を指標にした背景についてですが、観光地を目指すというよりは、外から人を呼び込むことを重視していました。実際には、関係人口や企業連携などもイメージしていたのですが、観光客数は経年的に追いやすい指標として選ばれたという理由があります。ただし、その点が誤解を招く可能性があるため、今後はその意図をきちんと丁寧に説明しなければならないと感じています。 補足として、観光客数が直接的に関係人口を表しにくいという点については理解しています。ただし、関係人口の把握が難しいため、この指標を挙げています。

	この数値を指標として選んだ理由をしっかりと説明したうえで、今後はこの指標で測っていく方針で進めていきたいと考えています。
会長	ありがとうございます。他にありますか。
C 委員	膨大な資料をしっかりとまとめていただき、ありがとうございます。私は9ページの目標指標について気になった点があります。確かに目標となる指標を挙げることは重要ですが、現在の実態をしっかりと受け止め、それを基に計画を作り上げていくことがなければ、形だけのものになってしまうのではないかと思います。 9ページに示された地域経済循環率や観光客数の指標についてですが、現状の安芸高田市の課題は、産業構造において農業が抱える問題にあります。特に、団塊の世代が中心となって農業を支えている状況があり、若い人々が少しずつ参入していますが、まだ数値的には十分ではなく、維持が難しい状況です。この点をどう支えていけるかが重要だと思います。もし支援が不足すれば、田園風景を維持することは難しくなるのではないかと感じています。 私たちも住民として、田園風景を守り、農業者の方々が草刈りや田植えを行い、今に至っています。そして、現在の食料危機の状況を考えると、食料供給が安定した町づくりも今後の重要なテーマとなる可能性が高いです。こういった点も安芸高田市が持つ魅力や将来性として強調するべきではないかと考えていますが、いかがでしょうか。
事務局	ありがとうございます。貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。おっしゃるとおり、一次産業に関する話は、基本計画には当然組み込まれるべき内容です。ただ、今回は機能論に基づいて整理を行っており、例えばアンケートにおいても生活機能の中で雇用確保などの選択肢を含めていたものの、回答割合が高くなかったため、アンケート結果を反映させる形で整理しています。それでも、ご指摘のとおり、元々存在する農林漁業などの産業を守るというスタンスも反映できるよう、今後の議論で盛り込んでいけるようにしたいと考えています。 農業だけでなく、商業やその他の産業についても重要であり、それぞれをどう捉えるかがポイントになります。お話を伺いながら、確かに「どれも大事」という視点になりがちだと感じました。基本計画や個別の取組の中では、各分野で体系的に事業が入っていく予定なので、その中で具体的な数字や指標を挙げる方が適切かもしれません。 アンケートの結果に基づく考えですが、新たな項目を追加するとなると、それがどのように反映されるべきかを慎重に検討する必要があります。現段階では、その調整をどのように行うかを考えています。

C 委員	基本構想の中では難しいかもしれませんが、総合戦略の中でどう組み込むかについて考えてみました。資料 8 を見てみると、基本目標の 1、2、3、4 の中に田園風景や農業、食料に関連する要素が含まれていないことに気がしました。現実を踏まえた将来への支援が、今の時代に必要だと感じています。 今だからこそ、こういった重要な視点を計画に盛り込むべきではないかと思います。そのため、今の現実を反映させた上で、より具体的に考えを入れていくことが求められるのではないかと私は考えています。
事務局	ありがとうございます。今回、総合戦略ではターゲットについてのみの説明が中心でしたが、例えば基本目標 4 に関しては、移住者を呼び込むためには農業などの受け皿にも注目する必要があります。向原高校から提案があった向原復興に関連しても、えびす茶を使ったプロモーションや農泊など、さまざまな意見が出てきています。 これらの個別施策については、しっかりと盛り込まれるべきですが、今回の整理の中ではその部分が見えにくかったことをお詫び申し上げます。今後はその点をしっかり整理し、明確にお示ししていきたいと思います。
D 委員	定住人口の数値目標として約 1.8 万人の推定人口維持を目指す中で、15 ページに記載されている「転入促進」は理解できますが、「転出抑制」とは具体的にどのような取組を行うのでしょうか？
事務局	例えば、先ほど触れられていた中学生や高校生に関して、高校生の段階で広島市内に出ていった場合、愛着度が低いという指標があったかと思います。そのため、地域に在住している間に、地域との関わりを深め、理解を促進するような取組を行うことが、具体的な方法として挙げられるのではないかと考えます。
D 委員	わかりました。ありがとうございます。
E 委員	細かい点ですが、資料をいただいた後、私は安芸高田市全体のことは理解しています。しかし、現実的に自分が住んでいる地域の状況について、この資料を作成する中でどこまで地域の声が反映され、基本構想がどのように作られたのかが気になっています。 例えば、農業の問題についてですが、以前は自分の農地を管理し、その収穫物で生活をしていた状況がありました。しかし、今ではそのようなことができなくなり、私の地域でも過去 2 年で 12 ヘクタールをやっていた人が辞めたり、6 ヘクタール、7 ヘクタールをやっていた人も辞めたりしています。実際、個人で農地を守

事務局	っているのは数人しかおらず、ほとんどの農地が手放されています。このような状況をどうするかということを考えています。 私は将来を見越して農業法人を立ち上げて取り組んでいます、そこで働く人が今はおらず、田舎に戻っても「田舎が好きだ」という人も少ない現実があります。また、空き家が増えており、管理されていないと廃屋状態になります。これを崩すには 300 万円、400 万円の費用がかかるため、現状のまま進むと、地域が過疎化し、さらに厳しい状況に陥ることが予想されます。 これを踏まえ、地域をどうするかという問題は非常に重要です。私が住んでいる場所では、引っ越しをすることはできませんし、子どもたちが帰ってくることを願いながら、現状の地域で暮らしています。平成 16 年に合併してから 20 年以上経過し、この間に地域がどれほど変化してきたかを見ながら、これからの未来を考える必要があると思います。 現実的な問題を踏まえて、地域の振興を考え、現状を反映させた計画を立てることが重要です。地域の人々が感じている現実を無視せず、しっかりと取り組むことが地域のためになると考えています。 公共交通の問題も深刻で、例えばタクシーで吉田に行くと、片道で 1 万円以上かかります。幸い、地域の人々が協力し合って運営している状況ですが、田舎に帰ってきて生活ができないという問題が存在します。これは一人の声ではなく、多くの人々が抱えている問題です。 このように、少子化が進んでいる地域では、みんなで支え合う必要があります。振興会活動など、地域の人々が行動している姿を若い人たちに見せることが大切だと感じています。組織としての活動だけでなく、実際に行動している地域の姿勢が、持続可能な地域づくりにつながるのだと考えています。 災害時には自助、公助、共助、そして近助という考え方が重要です。地域の人々が協力し合うことで、厳しい状況を乗り越えていけると実感しています。そのため、振興会組織が地域にあってこそ、持続可能な地域づくりが可能になると確信しています。 ありがとうございます。辻駒委員のお話を伺っていると、山根委員が指摘された現在の厳しい状況をどう守っていくかという点が重なる部分だと感じました。 例えば、資料 6 の 9 ページに記載されている「守っていききたい地域にとっての暮らしの機能」について、まさにその部分が今の課題に直結していると思います。 現時点では定住人口に関する指標が掲げられていますが、そこにさらに一つか二つの指標を加える形が良いのではないかと考えています。 例えば、農業従事者の数や、産業に従事している方々をどう捉えるかという点は、今後さらに相談していく必要がありますが、地域の生活機能を支えている
-----	---

	人々の必要人数を数値化できれば、それが地域振興にとって有効な指標となるのではないかと思います。そのため、検討を進めていきたいと考えています。
F 委員	私の不勉強で申し訳ありませんが、産業の付加価値額と地域経済循環率について、どのような数式で算出され、どのような意味を持っているのか教えていただけますでしょうか。
事務局	ありがとうございます。付加価値額については、実際には事業従業者 1 人当たりの事業の付加価値額を示し、これは所得に近い指標だと考えていただければよいかと思います。地域経済循環率については、地域で稼いだお金が外部にもれずにどれだけ地域内で循環しているかを割合で示す指標です。この割合が高ければ高いほど、地域内での経済活動が健全に維持されていることを意味します。厳密な定義については、今後改めて記載させていただきます。
F 委員	ありがとうございます。もう一つ提案というか、質問させていただきたかった点があります。今事務局が答えてくださったおかげで、半分以上は解決したように思いますが、もし「就業人口」のような形で、農業、商業、工業に関わらずすべての分野で関係人口を把握することができるのであれば、これを指標として取り入れることは正しいのでしょうか？ 入れるかどうかは別として、こういった指標を検討することが可能かどうかをお伺いしたいと思います。
事務局	ありがとうございます。 就業人口については、定住人口の構成の一部として扱えるため、出そうと思えば出すことができると考えています。
F 委員	では、それを目標値に入れるかどうかについて、再度ご検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。
事務局	ありがとうございます。
C 委員	最後にいただいた政策目標 3 についてお話しさせていただきます。子どもたちの学びと成長に寄り添うまちづくりの実践という点について、現在の安芸高田市の状況を見て、非常に重要な指摘がされていると感じました。市長が述べていたように、不登校の生徒数が 56 名に達しており、これは私が以前、教育委員会とのつながりがあった頃に比べて、かなり増えていると感じています。この問題にどう寄り添うか、学びと成長の支援が重要であると実感しています。

	さらに、もう一つの重要な取組として、市民の方々が実施されている有機農業の活動があります。市民の方が有機野菜を生産し、これを子どもたちの給食などに提供したいという意見があります。今、さまざまな化学物質が私たちの生活に影響を与えている中で、安心・安全な食材を提供し、子どもたちが健やかに育つ環境を作りたいという声が多くあります。そうした取組を進めている市町もあると聞いており、安芸高田市でもこのような施策を取り入れることができれば、さらに良い方向に進んでいけるのではないかと思います。このような市民の声も考慮し、まちづくりに反映できればと思いました。
事務局	ありがとうございます。反映していきたいと思います。
会長	他にご意見はございますか。すみません、私から一つお伝えしたいことがあります。資料 6 についてですが、結論部分で 18 ページと 19 ページがかなり要約されているように感じました。例えば、18 ページの将来像の部分には「受け継いでいきたい」「新しい価値観」「守っていききたい地域の暮らし」という 3 つが記載されていますが、19 ページに進むと、将来像が 1 つになってしまっている点が少しふめいりょう不明瞭に感じました。これについて、どうしてそうなったのかの説明があれば、より分かりやすくなるのではないかと思います。 また、18 ページの一番下に記載されている「将来像の実現に必要な政策と施策」として 5 つの項目が挙げられていますが、なぜこの 5 つなのか、その根拠が示されていないため、少し唐突に感じてしまいます。ここをしっかりとしたロジックで組み立てていただけると、計画がより説得力を持つのではないかと考えます。前半部分は非常に丁寧に論理的に進められているのに、後半の政策の部分に関しては突然出てきているため、もう少し丁寧に説明を加える必要があると感じました。この点については、今後の改善をお願いしたいと思います。あくまでコメントですので、特に問題はありません。 他にご意見がありましたらお聞かせください。それでは、資料 8 の総合戦略の方針についてもご意見をいただければと思います。
F 委員	総合戦略の資料 8 の 4 ページと 5 ページには非常に具体的な例が示されており、こういった取組が実現できれば素晴らしいと感じています。しかし、総合戦略の中で本当にここまで具体的な内容を考慮していくのか、という点については少し疑問に感じています。この部分について、どのように進めていくのか、もう少し明確にする必要があるのではないかと思います。

事務局	総合戦略については、ある程度具体的なところまで落とし込んでいきたいと考えています。ただし、ここまで具体的な事業まで落とし込むかどうかは一つの課題ですが、少なくとも形が見えるような方向に進めていきたいと考えています。
B 委員	2 つ質問があり、最後に確認させていただきたいのですが、1 つ目は資料 6 の 9 ページに関することで、目標指標の新旧表において、変更理由として「救急告示病院」などを理由に 1.8 万人の定住人口という目標に差し替えるという話があります。例えば、ライフラインとしての 1.8 万人という目標は理解できますが、定住人口をもう少し幅を持たせた目標にすることは難しいのでしょうか。そういった意見もあるのですが、いかがでしょうか。 スケジュールリングに関して確認したい点があります。スケジュールの 1 ページの裏面に、総合計画は大きく基本構想、基本計画、実施計画の 3 つで構成されていることが記載されていますが、それぞれに「確定」という丸印がありますよね。最終的に総合計画は議会の議決が必要だと思いますが、この「確定」とは、この会議で確定されたという意味で理解してよいのでしょうか？その後、議会で議決されるということで間違いないでしょうか。
事務局	そのとおりです。5 月の段階では、この会議で確定をさせていただき、6 月の議会で承認を得る予定です。先ほどもありましたように、基本構想については市の条例により議会の議決が必要となっておりますので、基本構想については議決を経て進めていく予定です。また、3 月下旬から 4 月の 1 カ月間を目安にパブリックコメントを実施し、その意見を反映させたうえで修正を行い、確定させていくという流れで進めていく考えです。
B 委員	わかりました。ありがとうございます。
事務局	前半にいただいたご質問について、2 万人という目標に関してですが、現在のところ 1.8 万人という目標を設定しています。この数字を維持するためには、市全体で毎年約 126 人の転入促進や転出抑制を行わなければならない、そのためには相当な政策的な強化が求められています。現実的には、かなり厳しいレベルであると言えるでしょう。
B 委員	大風呂敷を広げてほしいと言っているわけではなく、あまりにも現実的で、将来に向けて、特に若い人たちにとって計画に夢が感じられないと思います。もう少し具体的な裏付けを工夫し、いくつかの指標を通じて現実的かつ夢のある計画にしていきたいと思います。例えば、交流人口や関係人口のような指標を使っ

	て、もっと希望を感じさせるようなビジョンを示してほしいという欲張りな提案です。
事務局	ありがとうございます。工夫ができるところはしてみたいと思います。
会長	それでは全体を通じてありましたら、皆さんから何かありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。
D 委員	こちらの質問は既に回答されているかもしれませんが、資料 1 の今後の施策検討部分についても触れさせていただきます。今後、外国人の地理的分布を把握するという点についてですが、前回、2 回目の会議の際に、各市町に外国人がどの程度住んでいるのか、そしてどのような地域とのコミュニケーションが行われているかについて質問したことがあります。その結果については、まだ出ていないのでしょうか。
事務局	申し訳ありません。現在、調査を進めており、結果が出ましたらきちんとお示しさせていただきます。
F 委員	アンケートの結果や先ほどの事務局のご回答からも、義務教育段階での愛着形成や地域愛の醸成が重要であるという方向性は見えてきたと思います。しかし、その実現に向けて教育現場でどのように進めていくかについては、学習指導要領との兼ね合いなど、さまざまな課題があることも理解しています。そのため、この審議会内で教育に詳しい専門の方がいないことが少し気になる点でもあります。そこで、事務局側で教育に関する知識を持った方を招待していただくことは可能でしょうか。そういった専門家を交えることで、より具体的なアドバイスが得られ、方向性を明確にできるのではないかと思います。
事務局	そうですね、今回はそのような準備ができていなくて申し訳ありませんでした。しかし、今後はそのような形で、特に意見をいただける方にこちらに座っていただくことは自由にお願ひできますので、今後はその方向で進めていきたいと思ひます。ありがとうございます。
会長	では、できれば次回の会議にオブザーバーとしてお越しいただき、少しお話を伺うという形にさせていただけるとありがたいです。事務局の方でご調整いただけると助かります。

A 委員	「受け継いでいきたい安芸高田らしさ」に関して、市民の地域への愛着度という点が挙げられます。資料 6 の 9 ページに記載されている愛着度についてですが、おそらくアンケート結果を基にした資料 5 の 25 ページ、24 ページにも示されているように、都会では得られないゆとりや、自分らしく生きていける環境、また新しい社会や地域の変化に対応できるようなまちづくりが重要な要素としてとらえられています。この点について、やはり、いかに地域に主体的に関わり、自分の暮らしや地域を変えていく意識が持てるか、またその地域の未来のあり方の一部として積極的に関わられるかということが、愛着やプライドといった感情につながるのではないかと考えています。 そのため、愛着度を測る指標として「主体的に関われるかどうか」、または「関わりを持っているかどうか」という点を評価軸に含めることはできないかと思います。もちろん、これは主観的なものとなるかもしれませんが、このような視点を取り入れていただけると、より実感のある地域愛の形成が見えてくるのではないかと考えています。
事務局	ありがとうございます。そのような視点を取り入れる設問については、現時点ではぱっと思いつきませんが、確認してみます。もし該当する設問があれば、その考え方も含めて検討させていただきたいと思います。
A 委員	サービスを提供することよりも、いかに自分たちが生きたいように生きられるか、そしてそのための環境をいかに整えるかという視点が大切だと思います。こうした考え方が地域の魅力につながり、「この地域は本当に良い」と感じられるようなものになるのではないかと思います。そのためには、地域を支えたり応援したりする意識が自然に生まれ、アンケートにもそのような感情が反映されているのではないかと感じています。そういった点についても、ぜひご検討いただければと思います。
B 委員	今日は非常に貴重な機会をいただき、ありがとうございます。前回の第 2 次総合計画の際、安芸高田市の計画において「つながる」というキーワードを出し、検討したことを覚えています。その際には、地域の^{きずな}絆やつながり資本、いわゆるソーシャルキャピタルという言葉を使い、それをどう高めていくかという議論がありました。実際に、第 2 次計画では「人がつながる」というテーマが強調されていたと思います。 今回も支援のあり方やアンケート結果が示されており、ソーシャルキャピタルが高い地域では、医療や健康などの質も向上するというデータが後に多く出てきました。世界保健機関（WHO）も同様のことを述べています。この流れは第 2 次か

	ら第3次計画にかけて続いており、ソーシャルキャピタルの指標はますます進化しています。このような視点が、地域づくりの基盤として重要だと感じています。 ですので、安芸高田市のソーシャルキャピタルを測る指標を、このアンケート結果に生かすことができるのではないかと考えています。あまり遠く離れた考えではないと感じており、そのような視点をぜひ検討していただければと思います。
事務局	ありがとうございます。先ほどお話しした、自分がどれだけ行動できるか、または受け入れられているかといった関係性、そしてソーシャルキャピタルについても触れましたが、アンケートの中には地域の人間関係に関する設問も含まれています。これは18歳以上を対象にしたアンケートの12ページに記載されている「地域の人間関係」という設問です。この部分も確認しながら、さらに検討していけたらと思います。
会長	ありがとうございます。今回が第3次の計画ということになりますので、第2次計画で取り上げた「つながり」や「関係」といった部分についても、再考する必要があるのではないかと思います。今回はその関連資料があまり出てこなかったのですが、その点も今後検討いただければと思います。 他にご意見はございますか？ よろしいでしょうか。すみません、時間も迫ってきましたので、それでは本日の協議事項はこれで終了となります。進行を事務局にお返ししますので、よろしくお願いします。
事務局	ありがとうございました。最後に、事務局から2点ほどご連絡がございます。 1点目は、本日、多くの資料をお配りしておりますが、十分に意見をお聞きできなかった部分もあるかと思います。つきましては、3月11日（火曜日）までに、書面やメールでご意見をお寄せいただければ、それを反映させていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。 2点目は、本日ご紹介いたしましたシンポジウムの動画について、安芸高田市のホームページの総合計画のページに、今週末までにアップされる予定です。長時間の動画になりますが、ぜひご視聴いただければと思います。 最後に、次回の会議の日程についてご案内させていただきます。次回は、5月9日（金曜日）の15時からを予定しております。日程が近づきましたら、改めてご案内をお送りいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、以上をもちまして本日の審議会を閉会いたします。長時間にわたり、誠にありがとうございました。 以上